

皆で救う誰かの命

高岡市立芳野中学校 2年 向井 舞華

私の住む富山県では、今年一月、記録的な大雪が観測された。私の家にも道路にもたくさんの雪がつもり、家族総出で雪かきや屋根の雪下ろしをしていた。すると、ドスンッという音がして、見に行ってみると父が苦しそうな顔をして横たわっていた。屋根の雪下ろしをしていた時に、乗っていたハシゴから落ちてしまったのだ。母が急いで救急車を呼び、父は病院に搬送された。幸い、命に別条はなく、二週間の入院だけで済んだ。

救急車を見送ったあと、母が私に

「こんな大雪の日でもお金を払わずに来てもらえるなんて、感謝せんなんね。本当、ちゃんと税金納めようって気持ちになるわあ。」

と言った。私はこの言葉を聞いたとき、頭にはてなマークが浮かんだ。救急車が無料で来てくれるなんて、当たり前のことだと思っていたからだ。

調べてみると、救急車は、一回の出動で諸経費込みで約四万五千円の費用がかかるそうだ。実際、外国ではその費用を自己負担しなければならない場合が多い。その事実を知り、税金によって当然のようにこのサービスを受けられる私たちは、とても恵まれていると感じた。また、最大七十センチの積雪の中で、スムーズに救急車に来てもらえたのは、除雪が行き届いていたおかげだ。除雪車を動かすお金も、税金でまかなわれている。税とは、何に使われているのかよく分からない、私にはまだ遠い存在だと思っていたが、この一件をきっかけにとっても身近に感じるようになった。それと同時に、ありがたいものだと思感することができた。

今まで私は、買い物をするとき、消費税を上乗せして本体価格よりも数十円多く払わなければいけないことに対して不満をもっていた。しかし、その数十円が積み重なり、どこかで誰かの役に立つかもしれない、誰かの命を救うかもしれない。そう考えると、何だかとても誇らしくなってくる。私はまだ中学生で、消費税などの間接税しか払っていないが、皆の当たり前の生活のために、成人したらしっかりと税を納めようと思う。